

電氣學會々報

電氣學會雜誌 第68卷 第716號 附録

(昭和23年6月1日發行)(第三種郵便物認可 昭和22年8月26日)

昭和22年度事務及事業報告

昭和22年4月から23年3月に至る間に於て執行した事務及び事業の概要を報告する。

1. 會 員

正准員の異動 は次の如くである。最も大きな異動は「轉出入」即ち准員から正員への移行である。前年度に於て准員2,312名の正員編入が行われたが、本年度に於ては更に671名を正員に編入した。次で別記の如く准員は學生のみとなつたので准員中學生以外の者全部が正員に編入されたのである。

	正 員	准 員	合 計
再 登 録	(+) 793	-	(+) 793
入 會	(+) 157	(+) 769	(+) 926
轉出入 (1)	(+) 16	(-) 16	0
同 (2)	(+) 2,001	(-) 2,001	0
退 會	(-) 23	(-) 20	(-) 43
死 亡	(-) 54	(-) 15	(-) 69
差引増減	(+) 2,890	(-) 1,283	(+) 1,607

轉出入(1)は轉入の申込を承認したもの(2)は會から編入したものを示す。

事業維持員の異動 本期間各方面に對し入會の勧誘を行つた結果多數の入會があつた。

	社 數	口 數
入 會	193	229
退 會	11	52
合 計	182	177

期末會員數 23年3月末の會員數は下記の如くである。

	23年3月末	22年3月末	増 減
名譽員	9	9	0
正 員	8,555	5,665	(+) 2,890
維持員	360	178	(+) 182
贊助員	6	6	0
准 員	1,757	3,040	(-) 1,283
合 計	10,687	8,898	(+) 1,789

2. 會 員 數

本期間の會合數は280回で前期間の298回に比し18回を減少した。

總 會	2 回
役 員 會	5 回
理 事 會	12 回
賞 金 委 員 會	1 回
編 修 委 員 會	12 回
技 術 委 員 會	103 回
電氣規格調査會	116 回
電氣技術普及會	29 回
合 計	280 回

3. 規程の改廢

(1) 定款の改正(22年5月、會費増額)

(2) 定款及び本會規則の改正(22年12月、會費増額、正員及び准員資格の變更、休會制度の廢止)

(3) 賞金贈與規程の改正(22年7月、受賞候補者推薦範圍の擴大)

(4) 岩垂研究費補助規程の改正(22年12月)

(5) 岩垂獎學金補助規程の制定(同)

上記の中(4)及び(5)は岩垂獎學金約定書の改訂に伴うものであるが、これは同資金の第二封鎖金額が第一封鎖に繰入れられる承認があつた場合に施行されるものである。

4. 組織上の改革

正員の資格 22年12月下記の如くに改めた。

正員は左の各號の一に該当する者とする。

- (1) 電氣學術を攻究し又は其應用に熟達し且相當の經歷ある者
- (2) 電氣學術又は其應用に就き専修したる者

(3) 電氣學術又は其應用に密接の關係を有し且相當の經歷ある者
准員の資格 22年12月下記の如くに改め、准員中學生以外の者は22年12月1日を以てこれを正員に編入した。

准員は學生にして電氣學術又は之に關係を有する事項を専修する者とする

特例會費制度 雜誌の配布を受けない者に対する會費の割引制度は從來正員及び准員共にあつたが、これを正員のみに限ることとした。

休會制度 は22年12月を以てこれを廢止した。

5. 會費の改正

22年4月及び12月の2回に亘り下記の如く増額した。

	舊	4月改正	12月改正*
正員會費	60円	90円	200円
准員 "	48円	72円	170円
維持員(1口)	200円	500円	1,000円
特例會費	24円	24円	70円
正員入會金	10円	10円	60円
准員 "	5円	5円	30円

* 12月改正では正員會費月額20円、但前納半年110円、一當年200円。准員會費月額17円、但前納半年90円、一當年170円、特例會費月額7円、但前納半年40円、一當年70円となつたのであるが、本表には一當年前納の場合の金額を掲げた。

6. 功績の表彰

22年5月、通常總會で「淺野博士獎學祝金」を鳳誠三郎君「大同電力記念賞金」を宮原信英及び柳原才次郎兩君に贈呈した。(受賞事項は會報(4)に掲載)

7. 講演會・講習會・見學會

地方大會 全國大會は未だ復活の運びとならないので、下記支部に於ては夫々電氣通信學會及び照明學會支部と連合して地方大會を開催した。

	日 數	演 講 數	
		特 別	一 般
東京支部	5	6	291
關西 "	2	2	101
九州 "	1	3	21
北海道 "	1	2	26
合 計	9	13	433

講演會 本部及び支部で開いた講演會は合計 41 回で前期 32 回に比し 9 回を増加した。その他電気知識普及通俗講演會、講習會、見學會が開かれた。これ等の支部別回数を示すと次の如くである。

	地方大會	講演會	通俗講演會	講習會	見學會	合計
本 部	0	1	0	0	0	1
東京支部	1	8	0	1	1	11
關 西 "	1	5	0	1	3	10
九 州 "	1	2	0	0	0	3
東 北 "	0	7	2	0	1	10
東 海 "	0	4	0	0	3	7
中 國 "	0	5	0	0	1	6
北海道 "	1	2	0	0	0	3
北 陸 "	0	2	0	0	0	2
四 國 "	0	5	0	0	0	5
合 計	4	41	2	2	9	58

8. 雜誌及會報

雜誌 印刷所を 3 箇所とし月刊復元に努めた結果本期間は下記の如く 10 冊を發行することを得た。

卷 號	冊	發行年月	本文頁數
67 卷 702 號	22年1冊	22年5月	28
" 703 號	" 2冊	" 7月	28
" 704 號	" 3冊	" 10月	28
" 705 號	" 4冊	" 8月	36
" 706 號	" 5冊	" 12月	26
" 707 號	" 6冊	" 11月	30
" 708 號	" 7冊	23年3月	26
" 709 號	" 8冊	" 1月	26
" 710 號	" 9冊	22年12月	26
68 卷 711 號	23年1冊	23年2月	30

「發行年月」はその雜誌の發行された實際の年月を示す。

以上 10 冊の總頁數は 284 頁で前期 (5 冊) に比し 56 頁を増加した。これを欄別に示すと次の如くである。

	本期頁	前期頁	増 減
會長演說	2	0	(+) 2
說 苑	2	0	(+) 2
資料及論文	142	58	(+) 84
特輯論文	36	19	(+) 17
講 演	0	42	(-) 42
懸賞論文	13	0	(+) 13
調查報告	22	30	(-) 8
技術綜說	13	14	(-) 1
書面討論	4	0	(+) 4
研究速報	* 7	23	(-) 16
學界時報	46	28	(+) 12

本會記事	0	* 14	(-) 14
其 他	3	0	(+) 3
合 計	284	228	(+) 56

* 本會記事は 21 年 12 月以降會報の發行に伴いその方に移した。研究速報は寄稿新規定に伴い 22 年 5 冊以降廢止となつた。

寄稿新規定 終戦後も雜誌の發行がはかばかしく行かず又用紙事情は益々悪化して來たので會員の寄稿は滞積する一方となつた。そこで臨機の措置として寄稿規定を改訂し寄稿發表の疏通を圖つたのであるが、雜誌の發行がほぼ軌道に乗つて來たのと相まつて滞積寄稿も新寄稿も概ね順調に發表し得ることとなつた。

寄稿新規定の要旨は次の如くである

(1) 雜誌には 1 頁の「要旨」を掲載する。

(2) 編修委員會で特に會員を裨益すると認めたものは「全文」(5 頁以内)を掲載する。

(3) 「要旨」を掲載したものの「全文」は用紙事情の好轉を待ち「論文集」を復刊してそれに掲載する。

(4) 「要旨」を讀んで「全文」を希望する會員の申込が 50 部以上に達した場合は謄寫版刷とし有料で配布する。

(5) 同一人の寄稿は 1 年 5 件以内に限る。

(6) 「研究速報」は當分の間廢止する。

(4) に依る謄寫版刷は 50 部に達したものがなく本期に於ては刷成に至らなかつた。

會 報 は 21 年 12 月以降發行されたが、本期間は (3)~(9) の 7 冊 (36 頁) を發行した。

9. 出 版

電気工學年報 昭和 21 年版は前期に於て編修を了し本期發行の豫定であつたが延期の已むないこととなつた。併しほぼ組版を終つたので近く發行の豫定である。

電気工學ポケットブック の増刷は前期「丸善」に委託したのであるが本期 2 回に亘り發行した。本冊は製

本技術上の關係で 2 冊に分けられた**専門講習會豫稿** かつて東京支部で行つた電気工學専門講習會の豫稿の中適當なものを選んで「工學館」から發行することとし、その第 1 冊として「電気工學に於ける數學の應用 I」を發行した。

電気規格 「電気書院」から逐次發行することとした。本期間に發行されたものは下記 5 種である。

- (1) 電気機器一般 (JEC 85—1943)
- (2) 誘動機 (JEC 37—1943)
- (3) 變壓器、誘導電壓調整器及びリアクトル (JEC 3E—934)
- (4) 氣中遮斷器 (JEC 9—1944)
- (5) ガラス水銀整流管裝置 (JEC 111—1945)

又本會で發行したものは下記 1 種である。

- (6) 抗氣防爆型電気機器 (JEC 98—1944)

電力不足と燃料問題 電気知識普及資料第三輯として電気技術普及會から發行した。

電気技術綜說 従來雜誌に掲載されたものを部門別 7 冊に編修「電気書院」から發行することとし、準備を進めている。

10. 懸賞論文

前期審査を終了し、5 月 10 日通常總會に於て下記諸君に授賞した。

一等(賞金 3,000 圓)

○電力危機突破対策に就て—中國配電 宮崎、貢君(全文を雜誌 67 卷 704 號に掲載)

二等(賞金 1,000 圓)

○戦時社會情勢に基く大學専門學校卒業者の學力低下恢復向上策—日本大學 長濱重鷹君(要旨を 67 卷 706 號に掲載)

三等(賞金 500 圓)

○電力擴充計畫の構想を論ず—商工省 荒川康夫君(全文を 67 卷 707 號資料欄に掲載)

三等(同上)

○農村電化の新分野に就て—中國配

電 其阿彌正義君 (要旨を 67 卷 706 號に掲載)

11. 懸賞考案

「柱上變壓器焼損防止装置」の懸賞考案當選者に對し 9 月 4 日授賞を行った。

一等(賞金 5,000 圓)

日立多賀工場 小島 義男君

一等(同上)

新興電氣研究所 水谷 欽一君

佳作(賞金各 500 圓) 茨城縣多賀

町一伊藤謙三君, 東大第二工學部

一潮 恒郎君, 三菱神戸製作所一

門 頼雄君, 長野縣里山邊村一石

川博一君

12. 電氣規格の制

本期間電氣規格調査會の委員會々合數は 116 回で前期 106 回に比し 10 回を増加した。

本期間調査を完了し確定したものは下記 18 種である。(JES の番號を附したものは日本標準規格案である。)

(1) さし込接續器 (JES 電氣 8303)

(2) 屋内コード (" 3301)

(3) 鐵道車輛用電球 (" 7503)

(4) 信號用電球 (" 7505)

(5) 集魚燈用電球 (" 7504)

(6) 安全燈用電球 (" 7502)

(7) 屋内用小型スイッチ類 (" 8304)

(8) 低壓碍子ウワグスリなしノッブ (" 3805)

(9) 同クリート (" 3306)

(10) ウワグスリなし碍管 (" 3804)

(11) 同期機 (改訂) (JEC 114—1947)

(12) 交流積算電力計 (改訂) (JEC 115—1947)

(13) 配電線用小型高周波電流計 (一部改訂) (JEC 101—1944) (JES 臨 715)

(14) 絶縁抵抗計 (一部改訂) (JES 臨 264)

(15) カバ付ナイフスイッチ (JES 電氣 8308)

(16) 開放ナイフスイッチ (" 8307)

(17) 電氣單位の改訂に関する決議

又下記日本標準規格 10 種の制定に關與した。

(1) 低壓碍子ノッブ (JES 電氣 3801)

(2) 同クリート (" 3802)

(3) 低壓碍管 (" 3803)

(4) 低壓ツバ付碍管 (" 3804)

(5) 低壓ピン碍子 (" 3808)

(6) 低壓引留碍子 (" 3809)

(7) 高壓ピン碍子 (" 3810)

(8) 高壓杖碍子 (" 3811)

(9) 玉碍子 (" 3817)

(10) 安全燈用キャブタイヤコード (" 3303)

調査中の主な規格は次の如くである

(1) 電氣用語

(2) 變壓器

(3) 電車用主電動機

(4) 指示電氣計器

(5) 回路計

(6) 計器用變成器

(7) 斷路器

(8) 250 粘懸垂碍子

(9) 180 粘 "

(10) 高壓碍管

(11) 高壓引留碍子

(12) 特別高壓ピン碍子

(13) 特別高壓架線金具

(14) 通信用碍子

(15) ローゼット類

(16) 木臺

(17) 計測器用電球

(18) 配電線用電球

(19) 漁業標識燈用電球

(20) 豆電球

(21) 電球の口金及受金

(22) E₂₆ 及 E₂₉ 口金及受金用限界ゲージ

(23) キャブタイヤケーブル

(24) 水車

13. 調査研究

本期間電氣技術委員會の部門, 専門特別各委員會の會合數は 103 回で前期 127 回に比し 24 回を減少した。本期間調査を完了し報告のあつたものは下記 8 種である。

(1) 簡易な鐵道電化工事の指針

(2) 現下の石炭鑛業に於ける電力の問題 (雑誌 68 卷 711 號掲載)

(3) 最近の鐵鋼生産と電力事情 (4) 通信教育に関する調査 (會報 9) 掲載)

(5) 炭礦機器試験要項

(6) 周波數統一に關し消弧リアクトルの對策

(7) 周波數變更に伴う蓄電器設備の取扱

(8) 制御學技術の體系作製に關する調査

調査中の主な事項は次の如くである。

(1) 電氣技術の學習又は實務に必要な基礎學の範圍, 學修順序等

(2) 肥料の生産と電力事情

(3) 絶縁協調並に合理的絶縁保護に關する調査

(4) 高速電車運轉に關する調査

(5) 電氣車輛の故障對策

(6) フーリエ積分公式の演算式への書換

(7) 漸近級數解公式の編修

(8) 珪素鋼板の改良並に新變壓器の試作研究

委員會の新設及び解散は下記の如くである。

(1) 妨害電波研究委員會の設置

(本會及電氣通信學會關西支部連合)

(2) 配電用避雷器専門委員會の解散

(3) 炭礦用電氣機器調査研究委員會の解散 (九州支部)

14. 電氣知識の普及

21 年 7 月に發足した電氣技術普及會本期の事業は次の如くである。

資料の刊行 (1)「電力不足と燃料問

題」を刊行して各方面に配布した。本編は「現在の電力需用はその限度を越し、電燈及び動力の常時供給という本来の使用を達成することが困難となつた」事情を述べ、「これが打開策としては薪炭その他燃料の急速なる進出を求め、電熱需用を後退せしめる一途あるのみ」と斷じ、差當り今冬季電力飢饉に對する混亂の豫防と、生産再開に對する電力需用に備える必要を力説し、世論の喚起を圖つたものである。

(2)「感電の話」(3)「お家の電氣」の編纂を了し近く刊行する。前者は主として従事員に對し感電防止の正確な知識を與えんとするもの、後者は發電から家庭までの経路を圖示、簡単な解説を附した繪本で少年に對し電氣知識を與えんとするものである。懸賞考案 柱上變壓器燒損防止裝置の應募案 73 件に就き前期に引續き審査を行つた結果上記 11 に記載のく當選者を決定した。一等當選の考案は共に極めて優秀なるもので電力危機突破の爲め多大なる貢獻をなすものと信ずる。(當選考案の要旨は雜誌 67 卷 708 號に掲載)

15. 研究費補助

本期間に於ける研究費の補助は資金の關係上前期補助の繼續に限り、岩

役員改選報告

役員半数改選の結果下記諸君が當選した。(當選者及び次點者の得票數は紙面の都合に依り省略する)

- 本 部
 會 長 拔山平一(東北大)
 副會長 大西定彦(日立)
 同 北川一榮(住友電工)
 總務理事 巽 良知(産技協)
 會計理事 石塚晴美(日立)
 編修理事 關 英男(鐵研)
 同 法貴四郎(電試)
 調査理事 小川建男(電試)
 東 京 支 部
 支 部 長 福田節雄(東大)

垂獎學資金から下記 5 件に對し 16,500 圓を補助した。

- (1) 本多侃士君、武田 進君一高周波放電に關する研究(5,000 圓)
- (2) 三宅康友君一水晶振動子の實驗的研究(3,500 圓)
- (3) 大塚好造君一四端子回路網合成法の研究(5,000 圓)
- (4) 法貴四郎君一放電化學に關する研究(1,500 圓)
- (5) 伊藤 誠君一電磁波の廻折に關する基礎的研究(1,500 圓)

16. 其 他

- (1) 學術體制刷新委員會委員選定人 12 名を選出した。
- (2) 全科技聯解散の後を受け「學協會聯盟」が出来たので之に加入した
- (3) 商工省「電力調整懇談會委員」として大山會長を選出した。
- (4) 「日本工學會運營委員會委員」として高橋調査理事を選出した。
- (5) 學振に於ける「最近日本科學技術史編纂委員會委員」として鳳編修理事を選出した。
- (6) 「學術文献抄録連合」が出来たので之に加入した。
- (7) 雜誌の定價 10 圓を 20 圓に改訂 67 卷 705 號から實施、又雜誌廣告料を 5 割餘増加した。

- 庶務幹事 佐竹義美(商工省)
 會計幹事 太田勝治郎(富士電機)
 評 議 員 岩片秀雄(早大)岡崎三郎(理研) 岡村忠雄(東芝) 澤井善三郎(東大) 下村尙信(東芝) 關 四郎(運輸省) 關 壯夫(電試) 竹内良市(日發) 中村昇(日立) 宮本茂業(東芝)

關 西 支 部

- 支 部 長 阿部 清(京大)
 庶務幹事 竹屋芳夫(同)
 會計幹事 田中哲郎(同)
 評 議 員 内田幸夫(關西配電) 大谷泰之(京大) 品川秀雄(神戸工專) 野田忠次郎(阪神電鐵) 山口次郎(阪大)

九 州 支 部

- 支 部 長 實藤修作(明治工專)
 庶務幹事 米山正雄(九大)
 會計幹事 西村 博(日發)
 評 議 員 小林毅(九配) 芝 俊雄 三池製作所 進藤貞和(三菱電機) 田代有親(九配) 宮本拓夫(明治鐵業) 浦 缺一秋(田武夫(日鐵))

東 北 支 部

- 庶務幹事 阿部元志(日發)
 會計幹事 守屋 稔(通研電氣工業)
 評 議 員 小池勇二郎(東北大) 齋藤恂一(東北配電) 伊達孝則(仙臺逡信局)

東 海 支 部

- 庶務幹事 山本賢三(名大)
 會計幹事 淺川七平(東芝)
 評 議 員 井村義雄(日發) 梅田俊雄(中部配電) 岡本省三(濱松工專) 木村輝生(名鐵局) 伊田收一(名鐵)

中 國 支 部

- 支 部 長 島田兵藏(中國配電)
 庶務幹事 平田隆輔(同)
 會計幹事 吉村彝徳(日發)
 評 議 員 淺沼良男(日發) 眞鍋徳男(中國電氣) 山村城造(中國配電) 山本彦熊(同) 〇役員會選定一菊田多利男(日立) 櫻田乾雄(中國配電)

北 海 道 支 部

- 庶務幹事 坂本三郎(北大)
 會計幹事 入江 冲(北配)
 評 議 員 太田進(札幌放送局) 鈴木一郎(日發) 横田慶三(三井鑛山)

北 陸 支 部

- 支 部 長 深澤幾市(金澤市工)
 庶務幹事 島崎俊助(金澤工專)
 會計幹事 鳥取孝太郎(高岡工專)
 評 議 員 加藤龍之(北陸配電) 京藤隆重(金澤工專) 深井基郎(日發)

四 國 支 部

- 支 部 長 渡邊兼雄(日發)
 庶務幹事 森田 貢(同)
 會計幹事 長岡保一(同)
 評 議 員 奥田善一郎(四配) 北脇保喜(住友電力) 志村主雄(四國商工局) 關谷吉光(四配) (7 頁につづく)

昭和22年度決算報告

(1) 一般會計

科目	收入	科目	支出
會費	704,779.70	總務費	230,735.35
基本財産及預金利子	7,188.47	雜誌費	764,043.71
廣告料金	51,020.00	支部費	76,531.01
雜誌頒布收入	68,818.00	諸會費	3,160.00
雜收入	2,890.35		
文部省補助金	50,000.00		
特別積立金繰入	189,773.55		
合計	1,074,470.07	合計	1,074,470.07

(2) 事業維持員會費

科目	收入	科目	支出
繰越金	47,035.93	電氣規格調査會費	118,000.00
會費	352,475.00	技術委員會費	93,340.20
調査委託費	148,000.00	研究委員會費	2,000.00
		事務費	69,336.00
		雜誌費	44,200.00
		調査委託費勸募人	148,000.00
		次年度繰越金	72,634.73
合計	547,510.93	合計	547,510.93

(3) 電氣規格調査會費

科目	收入	科目	支出
電氣學會支出金	157,000.00	調査費	74,493.84
出版物頒布收入	50,815.85	通信費	5,443.00
預金利子	269.89	事務費	42,000.00
特許標準局補助金	30,000.00	消耗品費	1,945.00
雜收入	1,555.10	印刷費	17,530.34
		雜誌費	453.25
		調査委託費勸募人	39,000.00
		調査準備金繰入	58,775.41
合計	239,640.84	合計	239,640.84

(4) 調査委託費

科目	收入	科目	支出
調査委託費	148,000.00	技術委員會調査費	63,911.00
		規格調査會調査費	15,622.00
		次年度繰越金	68,467.00
合計	148,000.00	合計	148,000.00

(5) 電氣技術普及會費

科目	收入	科目	支出
繰越金	14,624.53	調査費	21,742.00
寄附金	84,000.00	出版費	22,920.00

出版物頒布收入	56,739.30	考案懸賞費	17,321.20
預金利子	565.49	事務費	15,448.00
廣告料金	500.00	通信費	3,100.75
		消耗品費	1,650.00
		雜誌費	1,350.50
		次年度繰越金	73,724.90
合計	156,429.35	合計	156,429.35

(6) 圖書出版

科目	收入	科目	支出
出版收入	285,687.50	圖書購入費	22,187.50
取次手数料	3,723.80	雜誌費	2,500.00
		特別積立金繰入	264,723.80
合計	389,411.30	合計	289,411.30

(7) 御下賜金

科目	收入	科目	支出
繰越金	48.44	次年度繰越金	68.75
利子	20.31		
合計	68.75	合計	68.75

(8) 委託金

科目	收入	科目	支出
池田資金			
繰越金	475.93	次年度繰越金	1,115.47
利子	639.54		
合計	1,115.47	合計	1,115.47

大井資金			
繰越金	526.72	次年度繰越金	805.78
利子	279.06		
合計	805.78	合計	805.78

淺野資金			
繰越損金	461.24	祝金費	1,000.00
利子	1,383.72		
日立資金繰入	77.52		
合計	1,000.00	合計	1,000.00

委託金總計

繰越金	541.41	支出	1,000.00
利子	2,302.32	次年度繰越金	1,921.25
繰入金	77.52		
合計	2,921.25	合計	2,921.25

(9) 寄附金

科目	收入	科目	支出
廣部資金			

繰越金子合計	36277 8755 45032	次年度繰越金	45032
合 計		合 計	45032

橋本資金

繰越金子合計	28455 91213 1,19668	次年度繰越金	1,19668
合 計		合 計	1,19668

鳥潟資金

繰越金子合計	44247 0 44247	次年度繰越金	44247
合 計		合 計	44247

岸資金

繰越金子合計	2637 0 2637	次年度繰越金	2637
合 計		合 計	2637

岩垂資金

繰越金子	186,023.84 14,154.88	研究補助費	19,500.00
繰利		講演會費	3,498.40
		雜費	1,492.00
合 計	200,178.72	次年度繰越金	175,688.32
		合 計	200,178.72

大同電力資金

繰越金子合計	2,778.44 1,260.00 4,038.44	賞金費	1,370.00
		次年度繰越金	2,668.44
合 計		合 計	4,038.44

日立資金

繰越金子	4,073.58 0	懸賞論文費	2,323.50
繰利		淺野資金補足	77.52
		次年度繰越金	1,639.56
合 計	4,073.58	合 計	4,073.58

關西共同火力資金

繰越金子合計	54432 43000 97432	次年度繰越金	97432
合 計		合 計	97432

富士電力資金

繰越金子合計	3875 0 3875	次年度繰越金	3875
合 計		合 計	3875

京濱電力資金

繰越金子合計	2,065.04 0 2,065.04	懸賞論文費	2,000.00
		次年度繰越金	65.04
合 計		合 計	2,065.04

寄附金總計

繰越金子合計	193,640.13 16,844.56 213,484.69	支 出	30,264.42
		次年度繰越金	183,220.27
合 計		合 計	213,484.69

(10) 缺損處分

死亡に依る未納會費 2551 圓 退會に依る未納會費 664 圓, 合計 3215 圓を缺損處分とす。

(11) 貸借對照表

(昭和 23 年 3 月 31 日現在)

負債の部		資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
御下賜金	200.00	有價證券	441,908.73
基本財産	212,539.61	信託預金	741,887.96
委託金	2,417.64	定期預金	268.75
寄附金	827,099.80	銀行預金	167,688.62
繰越金	400,036.90	振替預金	386,808.87
特別積立金	175,292.76	現金	43,232.52
調査準備金	81,852.32	備品	6,313.79
職退職給與積立金	1028.59	假拂金	71,583.82
圖書館復興積立金	7,732.34		
假受金	133,492.60		
合 計	1,859,693.06	合 計	1,859,693.06

昭和 23 年度豫算

(1) 一般會計

科 目	收 入	科 目	支 出
會 費	1,553,150.00	總 務 費	382,760.00
基本財産及預金利息	7,410.00	雜 誌 費	1,251,230.00
廣告料金	123,000.00	支 部 費	162,920.00
雜誌頒布收入	118,200.00	諸 會 費	4,900.00
雜 收 入	3,700.00	豫 備 費	103,630.00
特別積立金繰入	100,000.00		
合 計	1,905,490.00	合 計	1,905,490.00

(2) 事業維持員會費

科 目	收 入	科 目	支 出
繰越金	72,610.73	電氣規格調査會費	200,000.00
會 費	547,000.00	技術委員會費	201,750.00
調査委託費	50,000.00	事 務 費	70,000.00
		雜 費	60,000.00
		豫 備 費	137,860.73
合 計	669,610.73	合 計	669,610.73